

町田市地域防災計画 2023 年度修正方針（案）について

「町田市地域防災計画 2023 年度修正方針（案）について【資料 1】」でお示した修正ポイントの詳細は下記のとおりです。今後、防災関係機関の皆様のご意見等を踏まえ、町田市地域防災計画の修正を行ってまいります。

① 各種計画修正への対応

<持続可能な社会の実現>

新たな資源を活用した災害対応ができるようゼロカーボンシティを目指した取り組みについて明記し、持続可能な社会の実現に寄与します。

<多様性の尊重>

東京都地域防災計画の記載に合わせ、被災者の視点に立った防災対策として、女性や子ども、性的マイノリティへのきめ細かい配慮が必要である旨、新たに明記します。屋外用避難テントの整備や備蓄物資の充実等避難体制を強化することで、多様な避難者への対応を可能とします。

<DX 化の推進>

東京都は防災対策の実効性を高め、加速化するツールとしての「防災 DX」を積極的に推進しております。町田市としても、防災対策の DX 化の推進を明記し、災害時の被害軽減に取り組んでまいります。その一つとして、市民の利便性向上と市役所の生産性向上を図るため、防災システムを更改します。更改にあたっては市民向け防災ポータルサイト（町田市防災 WEB ポータル）の導入や職員のモバイル端末へのアクセスを可能とすることで、迅速な情報把握や分かりやすい情報発信が可能となります。



② 新しい被害想定に基づく避難施設別避難者推計の実施

2022年5月に東京都は10年ぶりに新しい被害想定を公表しました。町田市では、避難施設ごとの避難者数の推計を見直し、避難施設や備蓄等の資源の再配分を行うなど、新たな被害想定に基づき、防災対策の更なる充実に取り組んでいきます。

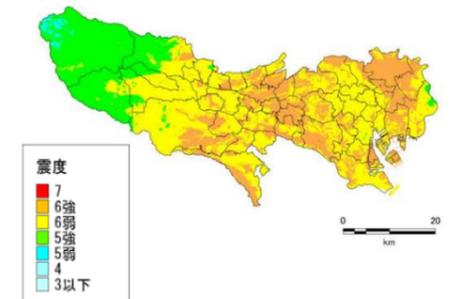
<被害想定（主な項目）新旧対照>

（町田市）

	新	旧
名称	多摩東部直下地震	多摩直下地震
死者数（人）	121	229
負傷者数（人）	2,126	3,200
避難者数（人）	58,411	92,758
帰宅困難者 （町田駅周辺屋外滞留者）（人）	6,066	12,268
建物倒壊（全壊）（棟）	1,718	3,931
建物倒壊（半壊）（棟）	7,829	12,521
災害廃棄物（万トン）	70	120

※新たな被害想定で死者数及び避難者数が最も大きくなる冬の夕方風速8mで比較

多摩東部直下地震（M7.3）の震度分布



③ 法改正等への対応

<災害対策基本法の一部改正>

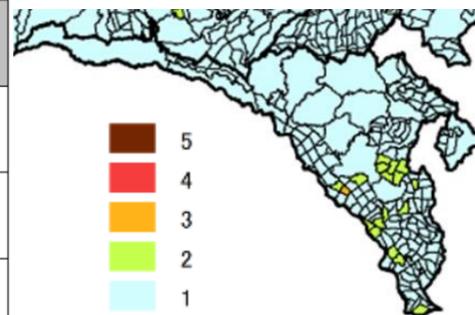
	新	旧
避難情報	避難指示	避難指示（緊急） 避難勧告
個別避難計画の位置づけ	市町村の努力義務	—



<地域危険度判定>

東京都が町丁目単位で危険度を5段階で出しており、数字が上がるほど危険度が高まる。調査では、建物倒壊危険度（建物倒壊の危険性）、火災危険度（火災の発生による延焼の危険性）等を加味して測定。

	今回調査 （2022年）	前回調査 （2018年）
危険度 4～5	—	—
危険度 3	森野3丁目	金森1丁目、高ヶ坂1丁目 森野3丁目
危険度 1～2	その他の町丁目	その他の町丁目



④ 震災対応図上訓練から得た課題への対応に伴う修正

市では、2023年1月に多摩東部直下地震を想定した、「震災対応図上訓練」を実施しました。訓練では、各種計画に基づいた地震発生時の初動対応の確認や、中長期的な災害対応を見込んだ態勢や手順の確認を行いました。訓練から得られた主な課題や今後の対応を下記のとおり計画修正に反映します。

課題	今後の対応
最新の情報が一元化（オンタイム化）されておらず、適切な情報共有がなされていない。	災害対応における DX 化を進める旨、計画上に位置付けるとともに、職員用の防災ポータルサイトを整備し、オンタイムで気象情報や避難情報、ライフラインの状況などが確認できるよう、情報共有を図ります
発災時のオペレーションにおいて、関係部署が多く、調整に時間がかかることが懸念される。	各対策部において、情報共有などのオペレーションはシステム化するとともに、発災時の各対策部の役割分担を明確化することで、迅速にオペレーションできるよう見直しを図る。



2022 年度 震災対応図上訓練の災害対策本部の様子